

3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震は甚大な被害をもたらしました。被災地の皆様に、心よりお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復興をお祈り申し上げます。

会員登録数は、おかげさまで創刊以来、順調に増え続け現在440人さま。ご愛読、本当にありがとうございます。次号は4月20日発行の予定です／

◆◆◆ 目次 ◆◆◆

【1】お知らせ

【2】コラム

《1》 YO!この本読んだ? Yasuko's & Okiko's Talk

《2》 読書活動ボランティアのためのワンポイント 7

《3》 サイト紹介 ー子どもの本をリサーチするー

《4》 行って来ました!

【3】全国のイベント紹介

【4】プレゼント

【1】お知らせ

● ニッサン童話と絵本のグランプリ、「公募アワード」大賞!

公募ガイド社では、年間の最優秀公募イベントを決定する「公募アワード」を実施されています。2010年度の大賞に、当財団主催の「ニッサン童話と絵本のグランプリ」が選出されました。

選考理由は、「大阪府立国際児童文学館の廃止統合という厳しい状況の中で、中止することなく継続したことを評価しました。同グランプリは、児童文学界における登竜門へと成長し、文化イベントとしてなくてはならない存在です」とされています。長年にわたり協賛をいただいています日産自動車様をはじめ皆様のご支援のおかげと感謝しております。

公募ガイド社のニュースリリース

<http://www.koubo.co.jp/contents/release/20110309.html>

● 紹介と解説「2010年に出版された子どもの本」参加者募集!

絵本・読物・知識の三つのジャンルにわけて、その傾向を解説します。

また期間中、おもな本を会場に展示します。

1. 日 時：4月22日(金)、23日(土)、24日(日)  
各回とも 午前10時30分～午後4時(内容は同じです)
2. 場 所：大阪府立中央図書館 2階大会議室
3. 定 員：各回とも 80名(申込み先着順)
4. 参加費：無料

5. 主 催：大阪府立中央図書館 国際児童文学館

共 催：財団法人 大阪国際児童文学館

お申し込み、詳細は ↓↓

<http://www.library.pref.osaka.jp/central/jibunkan/newbook.html>

● 寄付金を募集しています

当財団の運営を応援いただける個人、法人の皆さまからのご寄付を募っています。寄付金は、当財団が行う講座・講演会など、さまざまな事業経費に充てさせていただきます。ぜひ、ご協力いただきますようお願いします。

お申し込み、詳細は → <http://www.iiclo.or.jp/donation.html>

◆ 活動報告については、

当財団HP <http://www.iiclo.or.jp/> をご覧下さい／

---

【2】コラム

---

\*\*\*\*\*

《1》 Y O ! この本読んだ? Yasuko's & Okiko's Talk

\*\*\*\*\*

『クロニクル千古の闇6 決戦のとき』 ミシェル・ペイヴァー/作

さくまゆみこ/訳 酒井駒子/画 評論社 2010年4月

あらすじ：6000年前の北ヨーロッパにおいて、孤児で、生き物の魂の中にもぐりこむ能力のあるトラク少年が、兄弟のように意志の疎通ができるオオカミの「ウルフ」、ワタリガラス族の少女で未来を予知する力のあるレンとともに「魂食らい」という邪悪な魔導師たちを倒すまでを描いた全6巻の作品。本巻では、15歳になったトラクたちが「魂食らい」の中で最も力の強いワシミミズク族のイオストラと戦う。対象年齢：小学校高学年以上

O：ストーリー展開がおもしろく、6巻ありましたが、ずっと読むことができました。6000年前の北ヨーロッパの原始的な暮らしの中で、人々が何を考え、どう生き延びてきたかが実感できる作品でした。

Y：1巻の冒頭部分を読むと、作品全体の雰囲気理解でき、一気に引き込まれました。

O：冒頭にナイフが出てきて、死が描かれる。野生の魅力にあふれ、究極のサバイバルを味わうことができます。

Y：衣類、食べ物、道具類、匂い、触感など、すべての描写にリアリティがあって、追体験しているようなおもしろさがありました。

O：『ジャングル・ブック』（キプリング著）にも個性的なオオカミが登場しますが、この本の舎弟にあたるウルフも独白が書かれていて魅力的でした。ワタリガラスなどの脇役も光っています。

Y：全6巻の結末として、トラクが一人で英雄的に活躍するのではなく、ウルフ、レンはもとより、過去に魂食らいであった人も含めて一緒にイオストラを倒すという点は納得できました。子どもが世界を救うという点も児童文学らしい結末だと思いました。

O：このシリーズの重要なテーマとして「ナヌアク」（魂）ということがあると思います。「ナヌアク」とは「川、岩、木、ハンター、獲物ー生きとし生けるすべてのものの中で脈を打っている原初からの力で、<天地万物の精霊>ともつながっている」とあります（4巻、P.84）。この考え方は現代社会の中で宗教の力が弱まっている中で、何を信じて生きていけばいいのかということを示した一つの考えだと言えます。エコロジーの考え方と通じるものがあります。

Y：作者は南アフリカで南アフリカ人の父親とベルギー人の母親の間に生まれ、イギリスで教育を受けています。

O：著者のアイデンティティの問題が本作品にも投影されていることが強くうかがえますね。トラクは居場所を常に求め続けていて、そのことが作品をおもしろくしていると思います。

\*\*\*\*\*

## 《2》 読書活動ボランティアのためのワンポイント 7

\*\*\*\*\*

### 「その5 絵本の選び方(3) 古典的な絵本と新しい絵本」

ボランティア活動をされている方の中には、「私は30年以上読み継がれてきた絵本しか子どもたちに読まない」という方がいらっしゃいます。確かに読み継がれてきた絵本、出版され続けてきた絵本は多くの人が価値を認めている絵本ということができます。

絵本というメディアが印刷技術の発達と絵本の購買層の確立なしには成立しないということを考えると、欧米では1940年ぐらいから、日本では1960年ぐらいから本格的に出版が始まっているということが出来るかと思います。そして、絵本の積極的な出版が始まったころには、絵本の文法が模索され、単純かつ独創的な絵本が多く生まれました。

例えば、欧米では、『チムとゆうかなせんちょうさん』（エドワード・アーディゾーニ/作 せたていじ/訳 福音館書店 1963年）は1936年、『ちいさいおうち』（バージニア・リー・バートン/作 いしいももこ/訳 岩波書店 1954年）は1942年です。日本では、例えば『ぐりとぐら』（中川李枝子/作 大村百合子/絵 福音館書店）が1967年に出版されています。

これらの古典的な絵本はもちろん、今の子どもが読んでも楽しめる芸術的な作品ですが、古典的絵本がすべて今の子どもに楽しめるかというと、中には家族観が古かったり、印刷技術が十分に発達していなかったりするため、色調がぼやけていたりする絵本もあります（注）。

一方、現在の絵本は評価が定まっておらず、選ぶのは難しいのですが、今生きている作家が目の前の子どもに創作しているということ、また、絵本メディアの成熟が見られ、絵や文にさまざまな革新的な技法が用いられていること、印刷技術が格段に進歩していることを考え合わせると、新しい絵本も子どもたちに伝えることが必要だと考えます。  
両方のバランスをとった絵本選びが求められていると思います。

注：中には色や印刷技術が限られていることをうまく生かした絵本もあります。  
\*次号では「その5 絵本の選び方(4) 絵本を評価する：テーマ」の予定です。  
質問や意見をいただきましたら、お答えしていきたいと思えます。(Y)

\*\*\*\*\*

### 《3》 サイト紹介 ー子どもの本をリサーチするー

\*\*\*\*\*

資料所在データベース第7回目。今回ご紹介するのは、以下のサイトです。  
日本の古本屋 <http://www.kosho.or.jp/>

これまでは公の機関を中心に紹介してきましたが、今回はちょっと趣向を変えて、古本屋さんのサイトです。  
古本屋さんといっても、決して侮るべからず。全国の古書店組合に加盟する約2,300店のなかから、個性あふれるユニークな書店が多数参加、約580万件もの選りすぐりの本を出品しているのです。

その最大の特徴は、なんと言っても品揃え。いま流通している市販出版物はもとより、自費出版物や作家の肉筆類（自筆草稿や画、メモ、ノート等）、絵葉書や地図・ポスターなどの刷り物から、昔の双六やカルタ等々に至るまで実に広範囲をカバー。研究者や愛好家の必見サイトとなっているのです。

これまでは各古書店を回らなければ分からなかった店頭在庫が、ネットで横断的に検索でき、さらに価格比較までできてしまうのだから便利です。さらに、このサイトでは探究書登録が可能なもううれしいところです。会員登録（無料）をすれば、現在は在庫なしでも、欲しい本、探している本が登録でき、入荷したら知らせてくれます。

思い出の本、もう一度読んでみたいあの一冊を探し続けておられる方は、ぜひ一度検索もしくは登録を試してみられてはいかがでしょうか。(J)  
※次号は、資料所在データベース篇〈その8〉の予定です。

\*\*\*\*\*

### 《4》 行って来ました！

\*\*\*\*\*

大丸ミュージアムK Y O T Oで開催されている「没後80年金子みすゞ展～みんなちがって、みんないい。」に行ってきました。  
金子みすゞの詩は、今では小学校の教科書でも扱われていますが、広く知られるようになってからまだ二十年余りのことだそうです。私も2001年公開

の映画「みすゞ」を観て興味を持ちました。ふつうで素朴な言葉で綴られるみすゞの詩には、はっとさせられるものがいっぱいあります。当たり前で気がつかないことに気づき、命を尊び、にじみ出る優しさにとっても惹かれます。

展示は、大正から昭和にかけて、みすゞが26歳でこの世を去るまでの短い生涯がパネルで紹介されていました。新しく発見された少女時代の写真や、着ていた着物の端切れなども展示されており、みすゞを身近に感じます。また、投稿した詩が掲載された雑誌「童話」と一緒に、その時の西條八十の評や、通信欄に寄せられたコメントなども紹介されていて、童謡詩人としての期待の大きさがわかります。

展示ケースの中で閉じられていた、みすゞ手書きの3冊の手帳。この中にみすゞの世界が詰まっているのかと思うと、手にとってページをめくってみたい衝動にかられました。

後半は、各界の著名人63名の方々がメッセージを寄せています。どなたも、それぞれのみすゞを心の中に、絵や書や歌、あめ細工でも表現されています。中でも、中島潔さんの「大漁2001」と題された絵の、大群で泳ぐ鰯の中に佇む少女がみすゞと重なって、しばらくその場を動けませんでした。(K)

---

### 【3】全国のイベント紹介

---

#### ● 第21回 箕面手づくり紙芝居コンクール 作品募集

募集期間：4月1日（金）～5月15日（日）必着

募集規定：アマチュアの手作り作品に限る、ほか

募集部門：・ジュニアの部（作者・画家・演者とも小学生・中学生の作品）

・一般の部A部門（個人団体を問わず当コンクール入賞経験者）

・一般の部B部門

主催：箕面市教育委員会、人と本を紡ぐ会

問合せ先：箕面市立中央図書館

上記イベントの詳細およびその他の講座・講演会、展示会、公募情報については、こちらからご覧ください。↓↓

[http://www.iiclo.or.jp/03\\_event/04\\_other/index.html](http://www.iiclo.or.jp/03_event/04_other/index.html)

※イベント情報をお送りください。当財団HPに掲載させていただきます／

---

### 【4】プレゼント

---

今号のコラム《4》「行って来ました！」で紹介しました「金子みすゞ展」の「図録」を抽選で1名の方にプレゼントします。

ご希望の方は、メールで 件名「IICLO MAGAZINE NO.7プレゼント希望」とし、

(1)お名前 (2)郵便番号・住所 (3)電話番号 (4)メールアドレス (5)このメルマガのご感想 をお書きのうえ office@iiclo.or.jp にお送りください。

